

今週のメニュー

■トピックス

◇健康・省エネシンポジウムを九州で開催

樹脂サッシ工業会 事務局長 大木 茂

■随想

◇レソト王国旅行記（3）一道路一

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇健康・省エネシンポジウムを九州で開催

樹脂サッシ工業会 事務局長 大木 茂

2月19日福岡市電気ビル共創館カンファレンスにおいて、「住まいの省エネと健康・快適性を考えるシンポジウム」を開催いたしました。今回のシンポジウムは、主催が樹脂サッシ工業会（中澤俊夫会長）、協賛団体として「塩ビ工業・環境協会」、そして「（一社）日本サッシ協会」、「板硝子協会」、「断熱建材協議会」という断熱建材を代表する3団体のご後援を得ての開催となりました。九州というと温暖な地域なので断熱とは無縁では？と一般に思われがちですが、多数のご参加をいただきました。



冒頭、本シンポジウムのテーマである「省エネ・健康・快適な住宅をいかにして普及させるか？」について、国立研究開発法人 建築研究所理事長 坂本雄三氏から、我が国がかかえる課題と整理、今後必要となるであろう取り組みについてのご説明を受けました。



基調講演では、建築環境・設備学の見地から九州大学大学院教授の尾崎明仁氏に「開口部の断熱性能と省エネ・快適性」について講演いただきました。住環境における窓の重要性、断熱性能とその効果、具体的な対策・手法についても様々な示唆をいただきました。

一方、医学の視点から山口県立大学理事長の江里健輔氏に「血管が硬くなるはなし～住宅との関連について～」というテーマで、具体的な症例やそのときの体内の仕組みについて新たな知見を得ることが出来ました。シリアスなお話のなかでも、ユーモアあふれる温かみのある人柄に会場一同引き込まれました。

後半は坂本理事長にコーディネーターをお務めいただき、住宅産業に関わる3人のパネリストを招き、講師2名を加えた5名によるトークセッションとなりました。

福岡で早くから樹脂サッシを採用され、外断熱工法による高性能住宅を供給されている「健康住宅株式会社」の畑中直社長、国土交通省「住宅・建築物省CO2推進事業」をはじめ行政との連携をとりながら高性能断熱リフォームを推進されている「エコワークス株式会社」の小山貴史社長、建築のみならず幅広い見地から工務店支援をされている「通商株式会社」営業推進部長の熊木美樹氏、個性あふれる多士済々によるパネルディスカッションとなりました。

九州という比較的温暖と思われがちなエリアにおいても、省エネ・健康・快適性というキーワードが大変重要な要素であることが確認できたことは大きな収穫でした。

本シンポジウムを通じて今後、断熱建材、なかでも樹脂サッシが温暖地を含めて、日本全国に広がるであろうということを改めて実感しました。

■ 随想

◇レソト王国旅行記（3）―道路―

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

農業国であるレソト王国、輸入が輸出を上回るという貿易不均衡を何とか解消しようとして努力しています。

一番有力なのは観光。

アフリカ＝暑い、というイメージがありますが、そんなことはありません。レソト王国でもちゃんと四季はあります。南半球に位置しているので、日本とは季節が逆になります。

春：8月～10月 夏：11月～1月 秋：2月～4月 冬：5月～7月

冬になると、雪も降ります。ホテルのロビーに飾ってある写真を見ると、それなりの積雪があるようです。ただ、気になる話も聞きました。気候変動で気温が変わった。ここ数年、冬はより寒く、夏は暑くなったというのです。

南アフリカ共和国の人たちには、レソト王国はスキー場として知られており、いくつものスキー場もあるそうです。スキーシーズンになると、南アフリカ共和国から多くのスキー客が訪れ、「南アフリカのスイス」という別名があるとか。但し、どのスキー場も首都からはかなりの距離があり、交通手段も限られているので、ほぼ全てのお客は四輪駆動車を運転し、やって来るのだとか。

私が訪れた9、10月は春でしたし、アスファルト舗装の幹線道路しか通らない予定なのでフォルクスワーゲン製の普通車を借りましたが、普通車の移動、レソト王国国内ではかなり限られます。舗装されている道路は、首都マセルと国をほぼ一周する道路、それと東西南北を結んでいる横断・縦貫道路くらいです。

当然、街灯は首都マセルを除くと、かなり大きな集落にしかなく、あっても、日中、太陽電池パネルで充電して光らせるLED街灯なので、かなり暗い。さすがに、夜目が効く、地元の人でも危険を感じるらしく、日没を過ぎると、ただでさえ少ない車の交通量がほとんどなくなります。

LED 街灯、施工がかなりいい加減だったらしく、倒れているものが多数あります。基礎の部分から倒れてしまっているものもありますが、根元が腐食して倒れてしまったものもかなりあります。LED と太陽電池パネルを使った製品なので、まさか、日本製？ 日本の ODA で寄贈したもの？ と恐る恐る確かめてみたところ、日本製ではありませんでした。



レソト王国の道路
街灯もない、このような道路が延々続きます

道幅はかなり余裕があり、所々に落石と、アスファルトが剥がれ、穴が開いているところがあります。それ以外はほとんどのカーブにガードレールも設置されており、非常に走りやすくなっています。うっかりしていたのは、道路の村や町の入口には、車の速度を落とさせるため設けられている、段差（バンプ）。日本でも見ることはありますが、高さが違います。歩く速度程度で乗り越えるのは問題ありませんが、気が付かず、急ブレーキを踏んでも減速し切れず、時速 20 キロメートルほどで通過したときは、車が宙を飛びました。バンプならぬ、見事なジャンプでした (@_@)

レソト王国国内、失業率は 30% 台と非常に高いものの、比較的落ち着いており、陸続きではありますが、隣国、南アフリカ共和国と比べると、犯罪発生率も非常に低い状況が続いています（南アフリカ共和国の犯罪発生率が高すぎるともいえます）。道路でも警察によるセキュリティチェックが頻繁に行われており、運転免許証の確認、盗品でないことを確かめるため、車両の登録確認が行われています。こういう時は、英語が普通に通じる国で運転をしていてよかったと感じます。国によっては、警察官も英語が話せず、警察官が何を要求しているのか、さっぱり理解できず、大騒ぎになったことがあります (^_^;

運転は交通ルールもよく守られていますが、スピード狂が多い！

もともと制限速度が高く設定されており、制限速度で走行していると、ガードレールを突き破って崖下に落ちそうになります。このため、カーブでは必然的に速度を落とすことになりませんが、直線路になると、その遅れを取り戻そうとするためか、アクセル全開が当たり前。平均時速＝制限速度、という考え方なのではないでしょうか？ 昨日は、制限速度 + α で走行していたら、パトカーがヘッドライトをピカピカとパッシングさせ、ノロノロ走ると追い上げてきて、我慢しきれなくなったのか、そのまま追い越して、走っていきました。

(続く)

今回は、(4) - レソト人 - です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

東京の地下鉄は路線ごとに色分けされ、車両の色と案内看板の色も同じ色に統一されており、外国人など、はじめての電車を利用する方でも判りやすく工夫されています。

ただ、昔は色分けのルールが決まっておらず、東京メトロ丸の内線、都営浅草線、都営三田線が同じ赤を使用されていたそうです。「色取り合戦」の結果、丸の内線は赤、浅草線はピンク、三田線は青になり、元々青だった東京メトロ東西線は水色になったそうです。

また、千代田線の緑は千代田という言葉や日本庭園をイメージ、有楽町線の黄土色は都心のオフィス街やウオーターフロントに集う若者たちなどキラキラした印象を表現しているそうです。あなたも通勤で使う路線の車両の色の意味を調べてみたら面白いことが判るかも知れません。(鷹山)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp